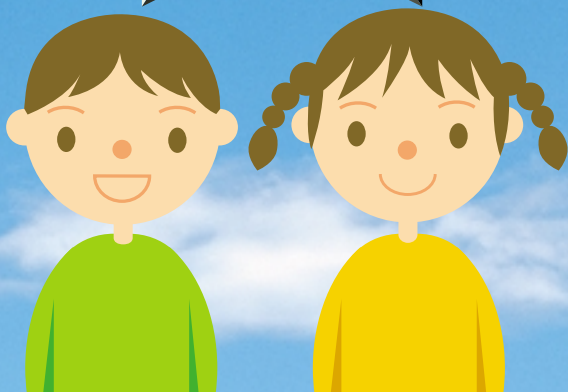


# ひと・まち・交通

ニュースレター第6号ができました

今回が最終回です。  
今までお読み頂き  
ありがとうございました。



●特集

提言「暮らしやすい仙台都市圏をめざして」

- ・まちづくり政策
- ・交通政策
- ・地域で取り組む政策

パーソントリップの  
ホームページを  
開設しています。





「ひと・まち・交通」6号をお届けします。

仙台都市圏総合都市交通協議会では、第4回仙台都市圏パーソントリップ調査をすすめていましたが、このほど「暮らしやすい仙台都市圏をめざして～まちづくりと交通政策そして交通行動への提言～」を発表しました。

「ひと・まち・交通」の最終号となる今回は、その概要をお知らせします。

## 提言にいたった経緯と目的

先生

第4回仙台都市圏パーソントリップ調査の結果、これからのまちづくりや交通のあり方を考えた提言が発表されたよ。

女の子

「ひと・まち・交通」はこれまで、  
<まちと交通の大きな変化>や  
<自動車と生活の深いがわり>  
<自動車と公共交通>  
<皆さんの声>  
<20年後の仙台都市圏の交通のすがた>  
などを特集してきました。

男の子

どんな内容なのですか？

そうだったね。

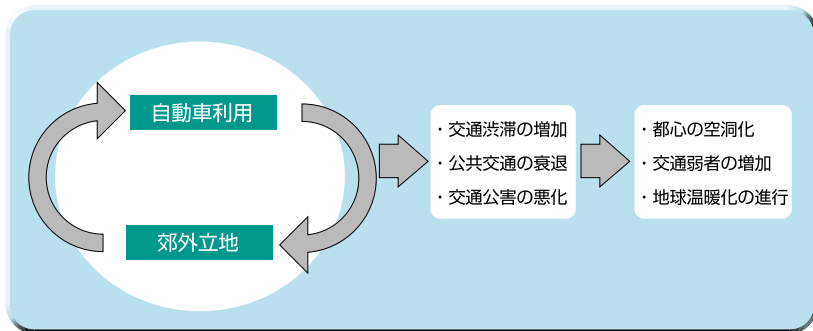
ここで重要なポイントは、仙台都市圏はこれまでのまちづくりと交通のあり方を見直す時期にさしかかっている、ということなんだ。

仙台都市圏の将来の姿を前回(5号)ご紹介したように、市街地が郊外に拡大する現在の傾向が続く場合(シナリオA)と、公共交通が便利な地域に市街地を集めてしまう場合(シナリオB)について検討し、シナリオBの方が環境にやさしくて住みやすいまちになるが、一気にそこまていくのは難しいので、当面できることから始めるために今回の提言に至ったのだよ。

大きくわけると、①まちづくり、②交通、③地域での取り組みの3つになる。

それぞれについては各ページで紹介するとして、今回の提言に至った背景を少し紹介しよう。

### これまでの都市構造の変化と交通



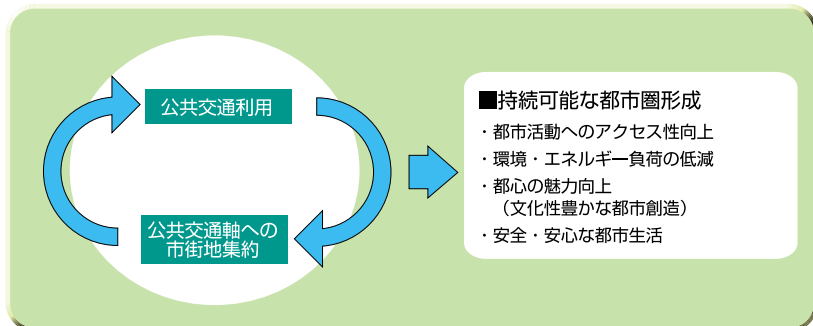
そうなんだ。

これまでの都市構造の変化と交通についてみると、郊外が開発され、まちがでると、自動車の利用が増え、それらが互いに関連しあいながら風船がふくらむように膨張してきたといえるよね。

その結果、交通渋滞が増えたり、バスの利用者が減少して、なかにはバス路線が廃止になった地域もある。

さらには都心の商店街がさびれたり、交通弱者の増加、地球温暖化の進行といった事態を引き起こしているんだ。

### (提言) これからの都市構造の誘導と交通



このままいくと、自動車がなければ何もできない社会になってしまうわ。

自動車を運転しない人たちは移動することができないよ。

そこで、自動車利用にたよりすぎている都市構造と交通の状況をただし、公共交通を中心にして、しつかも自動車をかしく使いながら、持続可能な仙台都市圏の形成をめざそう、という提言なんだよ。

# 暮らしやすい仙台

政策の柱 ① まちづくり政策 交通軸周辺への市街地集約型まちづくりを支援し、新しい暮らし方を提案します。



先生

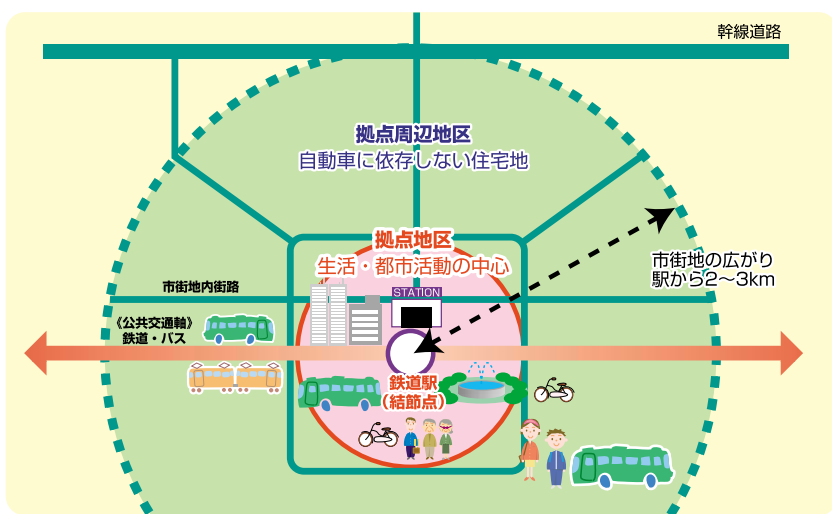
まず、まちづくりへの提言から紹介しよう。  
これは将来的には、交通軸上に市街地を集約した仙台都市圏をつくることを目指し、当面はできることから実施しましよ、という提案なんだ。

男の子

交通軸上に市街地を集約するって、どういうことですか？



## 自動車を使わなくても生活できるまちをつくろう



鉄道やバスの幹線路線を「交通軸」(図参照)と言ふんだよ。  
その交通軸の拠点となる鉄道駅やバスターミナルを中心に、会社や商業施設、公共施設などを集め、さらにそのまわりに住宅地を集めて、自動車を使わなくても生活できるまちをつくろうという考えなんだ。



女の子

すると、どうなるのですか？

通勤や通学には、便利な鉄道やバスを利用できる。

ふだんの生活に必要な買い物や、通院などは、身近な拠点にあるお店や病院などに、徒歩や自転車で行くことができるよ。

自動車を使えない高齢者の人たちも、便利な鉄道やバスで、まちなかへ楽に出かけることができるようになるんだ。

その結果、自動車による移動が減るから、交通渋滞が緩和され、CO<sub>2</sub>の排出量などが減少して、環境にやさしい交通が実現するよ。

また人々は徒歩や自転車で移動することが多くなるので、健康にいいし、まちなかにいろいろな人がたくさん集まるようになり、にぎわいが戻ってくるよ。



男の子

どんなことから始めるのですか？

交通軸そのものや、交通軸の近くに、魅力をつくるのが大切だね。

たとえば鉄道やバスの本数を増やして便利にしたり、駅の近くの利用されていない空き地に生活に必要な施設を集めることが、高層の集合住宅を建設することなども考えられるよ。

女の子

行政機関の役割も重要ですね。

そうだね。

行政の役割の一つに、交通軸から離れた地域の開発を抑えることがある。

このため、都市計画をつくったり、県民・市民や企業の皆さんとまちづくり協議会をつくり、その計画づくりと一緒に進めるよ。

また鉄道やバスの便利なまちなかへ住み替えをしようという人や、住環境の改善につながる建て替えをする人などには、応援することを考えている。

だから県民・市民の皆さんも、鉄道やバスの便利なまちなかに住むという、新しい暮らし方をぜひ考えてみてください。

※「交通軸上市街地集約型」都市圏とは？

- ・鉄道やバスなどの公共交通の基幹路線駅・ターミナルを中心とした2~3km以内に市街地を集約し、自動車を使わなくても生活できるまちで構成される都市圏です。
- ・外国でいうTOD(Transit Oriented Development:公共交通指向型開発)に近いまちづくりの考え方です。

# 都市圏をめざして～まちづくりと交通

## 政策の柱 ② 交通政策

「施設を建設すること」から「かしこく使いこなすこと」を重視する政策へ転換します。

先生



交通政策への提言の第一は、交通軸上に市街地を集約するまちづくりを支え、また環境にやさしい仙台都市圏を実現するために、交通体系の整備の重心を鉄道やバスなど公共交通に移すことなんだ。



男の子

公共交通が主役になるのですね。



鉄道やバスで、利便性の高い交通軸をつくっていかなくてはいけないね。

そのために便利で、信頼されるサービスを提供していくよ。

女の子



交通軸の拠点近くの、まちの便利さも考えなくては！

そうそう、拠点近くのまちをサポートする地域乗り継ぎバス路線の整備や、徒歩や自転車が走りやすいような環境の整備も必要だね。

そのような地域の特性をよく考えて、必要な施設を選択しながら作っていくことが、厳しい財政事情やこれからの高齢社会では求められる。

かしこく使いこなすって、どういうことですか。

必要な施設をつくっても、上手に使わなくては宝の持ちくされになってしまふ。仏つくって魂入れず、ということわざもあるだろう。

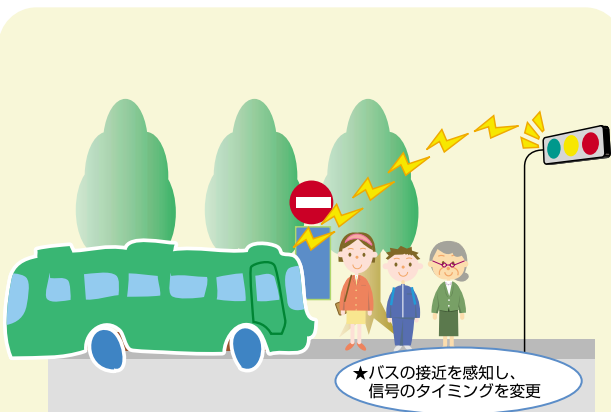
だから、施設の機能を最大限に発揮できるように、公共交通をもっと便利にしたり、自動車の利用を抑えたり、両方を組み合わせながら使いこなそうというんだ。

それが、かしこく使いこなすってことだよ。



具体的にはどんなことがありますか？

### バスが接近すると、信号をコントロール

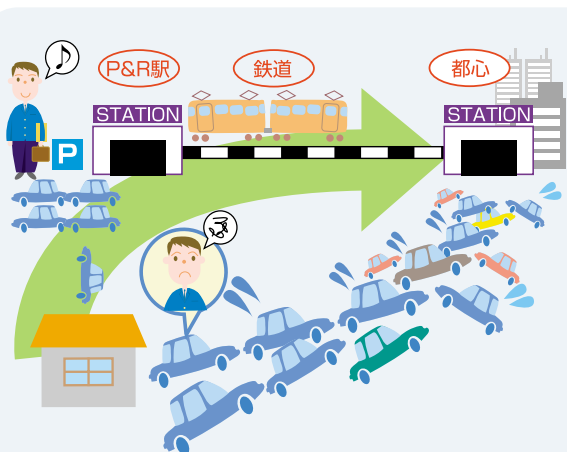


公共交通を便利にする方法の一つに、バスが走行しやすいよう車両の接近にあわせて信号をコントロールする公共車両優先システムがある。信号の待ち時間を減らして、所要時間の短縮を図るんだ。



パーク・アンド・ライドというの聞いたことがあります。

### パーク・アンド・ライド



自宅近くの駅の駐車場に自動車を置いて、鉄道やバスに乗り換える方式だね。

幅の広い道路の歩道を拓げ、徒歩や自転車利用が快適にできるような方法や、都心のバスを走りやすくしたりする方法もあるよ。

そうして他の交通手段が便利になると、自動車を利用する人がだんだん減っていくんじゃないかな。

## 政策の柱 ③ 地域で取り組む政策 県民・市民や民間企業の方々にも「考え行動する交通」への参加を呼びかけます。



先生

これまでに紹介したまちづくりや交通への取り組みの中には、今すぐ取り組むことができるものがあります。



なんだろう？

それは、自動車の使い方を見直すことだよ。



女の子

それなら、すぐにできるわ。

そこで県民・市民の方々をはじめ、企業のみなさんにも、ふだんと同じ生活や企業活動をしながら、できることから自動車の使い方を減らしていく「かしこいクルマの使い方を考えるプログラム」への参加を呼びかけます。

「かしこいクルマの使い方を考えるプログラム」って、どういうことですか？

### 社会のベストを考えて、交通手段を選ぼう！



出来る範囲でCO<sub>2</sub>削減に協力！



実際に鉄道・バスに乗ってみよう！無理なく使えるのは、**どういう移動の時？**



たとえば、いつも自動車ばかり運転する人の中には、バスの利用の仕方を知らない人がいたりする。

すると、その人にとっては自動車以外のことは知らないから、他の交通手段を選択するという考えが出てこないんだよ。

それでは困るから、いろいろな交通手段があり、どうした場合にどの交通手段を選ぶのがベストな選択か、そういったことをみんなでご考えるんだよ。

ベストといっても、いろいろなベストがあるわ。

うん、とても大切なことを言ってくれたね。

一人ひとりが時間や費用のことを考えてベストだと判断した結果、自動車の利用にたよりすぎてしまったのが、今の交通のすげえだよ。

だから、これからは個人のベストではなく、社会のベストを考えなくてはいけない。

これ以上、環境に負荷をかけないためにCO<sub>2</sub>を削減するとか、何のために自動車の利用を減らすのか、何が社会に必要なのか、を考えようよ。



通勤に自動車を使う人もたくさんいます。

企業の場合も、働いている人のめいめいが自動車通勤をすると、仕事が始まるまぎわには大きな会社の周辺では渋滞が起きるんだ。

でも通勤に鉄道とバスを使えば渋滞は緩和され、会社としても大きな駐車場を用意しなくてすむから一石二鳥だよ。



それはいいですね。

こうしてみんなでご考えたり、いろいろなことに取り組むことが「考え行動する交通」に参加することになるんだ。



# 暮らしやすい仙台都市圏の実現に向けて



先生

交通の問題は、私たち一人一人が、いつでも自由に、行きたいところに移動できるという基本的人権の問題です。

それは自動車を持っているか持っていないか、運転をするかしないかに関わらず、すべての人々に保障されなくてはなりません。

第4回仙台都市圏パーソントリップ調査「暮らしやすい仙台都市圏をめざして～まちづくりと交通政策そして交通行動への提言～」は、将来の仙台都市圏がめざすまちと交通のすがたを紹介し、それを実現するためのまちづくり政策として、交通軸上に市街地を集約して自動車を使わなくても生活できるまちをつくること、そこに至る道筋として、まちづくりを支える交通政策と地域で取り組む政策を提言しています。



男の子

一人ひとりができることから



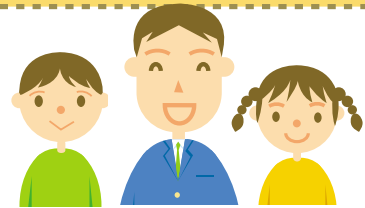
女の子

無理をしないでできることから

## 交通軸上市街地集約型のまちのイメージ図



交通の大切さについて考えながら、取り組みましょう。  
そして交通軸に集約された、鉄道・バスが便利なまちなかに住む、という新しい暮らし方を実現できたら素晴らしいと思いませんか。



- ◎国・県・市町村など行政機関は、交通の施策と連動したまちづくりを進めるため、上位計画の見直しや、誘導施策・制度の検討に取り組みます。また提言で示された交通施設の整備や交通ソフト施策について、具体的な実施プログラムを検討し、効率的で着実な実施に努めます。
- ◎暮らしやすい仙台都市圏を実現するためには、地域の皆さんの積極的な取り組みが必要です。県民・市民、地域の事業者・企業の皆様のご協力をお願いいたします。

ご意見をお寄せください。

[e-mail/sendai-pt@pref.miyagi.jp](mailto:sendai-pt@pref.miyagi.jp)

(ニュースレター「ひと・まち・交通」を読まれた感想や、パーソントリップ調査の結果についての)ご意見をお寄せください。スペースが足りないときは別紙でFAXをお願い致します。

このままFAX022-211-3295へ

## ■ご意見

-----  
-----  
-----  
-----

お名前 男・女 才 電話 - -

ご住所〒 お仕事

仙台都市圏総合都市交通協議会 宮城県・仙台市

問い合わせ先

- 宮城県都市計画課 企画調査班 022-211-3134
- 仙台市交通計画課 調査係 022-214-8302